

開催地名：大阪府和泉市	
開催日時	令和 5 年 1 月 14 日（土） 9：30 ～ 11：00
開催場所	和泉シティプラザ
語り部	武藏野 美和（岩手県陸前高田市）
参加者	自主防災組織、消防団他 55 名
開催経緯	阪神・淡路大震災の発生を契機に、防災意識の高揚を図るため、「防災とボランティアの日」を毎年 1 月 17 日とし、1 月 15 日から 1 月 21 日までを「防災とボランティア週間」とした。市としても、毎年、防災とボランティア週間に合わせて、防災研修会等を毎年実施している。当市では、平成 29 年の台風 21 号、平成 30 年の大阪北部地震及び台風 21 号以降、大きな自然災害もなく、市民（職員）の自然災害に対する危機管理の意識が低下している。
内容	<p>（1）震災発生時の陸前高田市について</p> <p>私が住んでいるのは、岩手県陸前高田市という、人口約 1 万 8,000 人ほどの小さな市である。東日本大震災の前には、約 2 万 4,000 人の住民が暮らしていた。岩手県の南部にあるので比較的温暖な地域で、陸前高田市の象徴とも言える白砂青松の高田松原は、市民はもとより県内外の来訪者からも愛される場所だった。約 7 万本と言われる松は、「奇跡の一本松」以外ほとんどが流されてしまった。海岸沿いに面した部分が少なく、市の中心に大きな川が通っており、かつて川から中州が生まれ、そうしてできた平野に人が住み始めたことで栄えた歴史があり、震災時は川の近くに市役所や図書館、学校といった主要な建物や住宅が集中していた。そして、残念ながら災害防止に繋がる対策は講じられていなかった。</p> <p>（2）東日本大震災時の状況</p> <p>2011 年 3 月 11 日の午後、マグニチュード 9.0 の大きな地震が発生した。陸前高田市の震度は 6 弱で、約 160 秒揺れ続けた長い地震だった。地震そのものより、しばらくしてからやってきた津波による被害が大きかった。東日本大震災の死者の 95 パーセントが津波による溺死だと言われている。津波の恐ろしさは、いろいろなものを破壊しながら、水が塊で襲ってくるころだ。地震発生から 40 分ほど経った頃、気仙川を火事のような煙と砂埃を上げながら津波が遡り、市役所や消防署などの公共施設は全壊した。</p> <p>川の近くに建物が集中していたことから、津波を予測して真っ先に高台や建物の屋上へ逃げた者は難を逃れたが、多くの市民が地震の揺れで倒れたり落ちたりしたものを片づけている最中に津波に遭遇し、巻き込まれて犠牲になった。子どもたちは学校で避難して無事でも、家にいた家族が津波に巻き込まれてしまったケースも多く、岩手県全体で 94 人、陸前高田市だけで 32 人の震災孤児も発生した。また、行方不明者を含む死者数は 1,758 人に及び、11 年半が経過した今でも、202 人の人たちが行方不明となっている。</p> <p>この経験を通して、私はひとりひとりが「災害が起きたらどう動くか」ということを常に考える意識が大切だと強く感じた。住んでいる場所や、置かれている状況を見て、どう避難するのが安全なのか、一人一人自分で考えることが大切である。また、防災に関して自分たちが学んだことや得た情報を、地域の人たちに伝えていくことによって、災害発生時により多くの命が救えるということを感じておいてほしい。</p>

(3) 災害に対する心構え

自分の命を奪ってしまうもの、自分や家族の笑顔を奪ってしまうもの、自分の大事なものを奪ってしまうもの、そのすべてが災害である。命や生活を脅かすものすべてを災害ととらえ、そして、これらの災害を防ぐことが「防災」と意識してほしい。自分の大事なモノをなくさないように大切にすることも防災だと言える。交通事故や新型コロナウイルス感染については、工夫することで未然に防ぐことができるが、地震や洪水などの自然災害については、いつ起こるかわからないうえ、発生を止められない。それでも、自分の命は自分で守ることが鉄則なので、自分の住む地域の災害リスクをハザードマップなどで知ることは必要であるし、以前の津波や洪水の被害について知ることも大切なことだ。

近年は地震や台風などの自然災害が増えてきていることから、非常時持ち出し袋を準備するなどして、1次防災や2次防災の備えをしている人は多いかと思うが、自分にとって大事なものをいつでも持ち出せるようにしておくことも重要だ。好きなものをストックして、消費したら補充しておく。使いまわし、循環が備蓄につながる。

防災講話で一度だけ知識を学んでも、忘れてしまうことがほとんどである。日頃から好きなお菓子を持ち歩いたり、新聞で皿を作ったりなど、生活の知恵そのものが防災につながる。これを『生活者の視点の防災』と呼んで大事にしてほしい。日頃から「万が一」を考え、自分にとって必要なものについては自分で備えることが、自分の命を守ることに繋がる。



開催地より

経験者による具体的なお話を聞くことで、生徒たちは災害の具体的なイメージをつかむことができたと思う。今日のお話しを受けて、自主防災組織、活動拠点等の促進と、防災訓練費、備品購入等の補助等を積極的に対応していく所存である。